

■平井功(飛来鴻)

ひらいいさお

韓国反日暴動1907=**一世を風靡した少年詩人。'天才と狂人は紙一重' そのものの奇人であったが、夭逝した。**

東京神田で、医師平井成の二男に生まれる。

伊藤博文暗殺1909= 2歳：弟俊也が誕生。

父は森鷗外の部下の軍医で日露戦争に従軍後開業医になっていたが、漢詩文を嗜み、書画・篆刻を趣味とするほどの人物であったが、4つ上の兄の正岡容とは全く合わずほとんど義絶状態であった。

大逆事件判決1911= 4歳：九段下の精華幼稚園に入るが、早熟で、すでに天才的閃きがあったという。**明治天皇没**・1912= 5歳：

大正政変・・1913= 6歳：高等師範学校の付属小学校に入学後も、群を抜いた神童ぶり、綴方で異彩を放って教師らを驚かせる。

民本主義・・1916= **9歳**：この頃から、昆虫採集、標本作成に熱中、**ベーメン条約**・1919=12歳：弟とともに、父に連れられ、富士山に登って、天然自然界の驚異に感銘する一方、_雑誌{金の星}に「ジョンの死」を応募して受賞。

大暴落・・・1920=13歳：天才教育を標榜する東京府立第五中学校に入学、ここでも頭抜けた成績で注目されるも、自らにとっては低級なものでしかなく、家庭でも不愉快な問題があつて不登校になる一方、植物にも異常な興味を抱いて、ラテン名も無数に暗記、牧野富太郎、伊藤篤太郎らと交流するようになり、生家から飛び出し行く。

原敬首相暗殺1921=14歳：学校当局や父母の懇願も蹴って中退、アテネ・フランセに通い、兄の正岡容の紹介で_西条八十に弟子入りするも、自分には手に負えないと悟った西条の紹介で、偏狭我執でほとんどの詩人は認めない日夏耿之介の門下生になると、日夏は、その非凡ぶり認めて弟子にするも、本人は師をあまり評価せず、師の作品の問題点を指摘すると、師の方がなるほどと認めてしまうほどの天才ぶりで、周囲の人が無能に見えてしまったのである。すでに大学以上の教養を身につけ、常人ならようやく不惑の齢になつて得られるような精神上の経験を味得、熟年者のつけるような題名の、象徴詩の傑作を続々創り、

水平社結成・1922=15歳：最上純之介名で、*それら15篇を収めた特異な詩集「孟夏飛霜」を処女出版。詩題の卓抜さ、措辞の巧緻さなどで、先輩詩人を驚倒させ、同輩文学者を瞠目させる。以後、飛来鴻、J·V·ロペス(炉辺子)の筆名で詩作のほか、外国詩を翻訳を発表して注目される。{白孔雀}に、詩「自嘲?(りっしんべんに斐)語」、

関東大震災・1923=16歳：弟俊也が夭折。この年、父と意見が衝突し、母とともに別居、**護憲三派圧勝**1924=17歳：人を介して、父に詫びを入れて実家に戻り、師日夏の監修で、雑誌{東邦芸術}を発刊して、「青の憂愁」などの詩や小説を書いたが、今度は、母の許を飛び出して本郷に下宿し、{小笠原プロダクション}に入所、**治安維持法**・1925=18歳：同門で俳人の内藤吐天の好意で、鎌倉大仏裏の別荘に独居するも、蒐集した稀書珍籍を盗まれて悲嘆、**円本時代始**・1926=19歳：またも中野に転居するも、日夏家を往訪し、そこに集まる年長の詩人らと文学論をかわして誰も太刀打ちできず、その言動振舞に狂的と思われるところがあつたため、この間、父母に連れられ名医に診察して貰うも、狂疾とは認められないとの診断。_{第一書房}から、かなりの好条件で、「孟夏飛霜」より後の前記2作や、この年({東邦芸術改め)奢ハ都}に発表の「むかしの月」「子供部屋」「唄」など、その後の詩をまとめた第二詩集「驕子綺唱」を出版する話があるも、一流詩人と同等の待遇でないと蹴つてしまい未刊になる。**金融恐慌**・・1927=20歳：誰にも告げず、岩手県の小岩井牧場に行って仕事を求めるも採用されず、盛岡警察署からの連絡で急行した父に連れ戻されたり、友人の下宿でモルヒネを飲んで人騒がせしながら、師日夏の媒酌で、かねて相思の木本豊子と結婚、友人内藤の厚意で、鎌倉別荘に新居を営み、ようやく精神的落ち着きを取り戻し、大久保で父と同居していた時には、珍本稀書に囲まれ、嗜好を同じくする妻と生涯最良の時を楽しみ、**共産党事件**・1928=21歳：_詩「日だまり」、**世界恐慌**・・1929=22歳：一子を儲け、森鷗外に倣って、アイザックを示す以作(イサク)と命名。_詩「落葉」「木立」など、この頃、雑誌{レモンテオン}や{羅針}に発表した作品は、すっかり侘び寂びの境地になる一方、かねてから、17、18世紀の英文学の古版本や限定本に親しんでいたのが書いて、典籍の形態、造本技術などの研究に打ち込むようになり、理想的な雑誌を創つてみたいと、自ら{游牧印刷局}を始めて、限定版の高級優雅な学芸雑誌{游牧記}4冊を予約出版、篤志の同好に配布、この方面的先覚者でもあったが、時代の荒波に対応すべく覚悟、**海軍軍縮条約**1930=23歳：紹介されて、岡野他家夫が在職していた_府立高校図書館に勤務するうち、共産党のシンパとなり、**満州事変**・・1931=24歳：**五一五事件**・1932=25歳：尾行されるようになって転々とするうち疲労困憊、ついに検挙され拘留直後、鼻孔内に蜂窩織炎を発症、釈放されるも病臥し、1週間後に没した。父平井成は、「孟夏飛霜」後の創作詩や訳詩26篇を選んで一巻とした家蔵限定の「爐辺子残藁」を生前の辱知に配布した。

告別式にも現れなかつた兄の正岡容は、作家、落語・寄席研究家になり、歌舞伎役者の6代目尾上菊五郎の座付作者ともいわれる。子の平井イサクは膨大な推理小説、サスペンス小説の翻訳家として有名になる。